桐たんすを前にして、宮崎社長（左）と絹川部会長。

こんにちは！○○部会です

部会長の部会員訪問

建設産業部会編

伝統とハイテクノロジーの融合を未来へ

宮崎木材工業株式会社

会員との“つながり”拡充を目的に、本所の12部会の部会長が部会員の皆さまを訪問いたしております。第５回目となる今回は、建設産業部会の絹川治部会長が宮崎木材工業㈱を訪問し、宮崎紀子社長からお話を伺いました。

家具の宮崎 指物150年の伝統と技術

宮崎木材工業は指物製造業として安政３年（1856年）に創業、本年で156年目を迎える老舗です。元は「宮崎タンス」の洋家具部門として設立されましたが、分社化し、船舶の艤装（ぎそう）をはじめとして、戦後は家具の製作から、現在では住宅工事や茶室、ホテル、ホールの木工事などに携わる仕事が大部分となり、家具製作の技術に基づいた、細やかな伝統を重んじた美しい内装に国内外から高い評価を得ておられます。

しかし、木工事が仕事のほとんどを占める今も、原点を忘れないという意味から、本社２階には木の香漂う「京指物資料館」が設置され、「宮崎150年の歴史」をはじめ、桐タンスや漆、蒔絵、螺鈿技術を駆使した京指物などが当時の貴重な資料とともに展示されています。

京都迎賓館の内装も手掛けた。

原木から現場取付けまで責任施工

宮崎社長は工場の高度な機械化を進める一方、取付大工の老齢化を危惧して、技術を継承するため、約15年前から新卒社員に大工修行を経験させる体制を構築したり、宮崎の伝統である桐たんす等製造のため、畳敷きの場所を今も設け、木取りから仕上げまで自社で行われています。

京都迎賓館大広間にある黒漆の座卓や大会議室の家具・造作など、宮崎の家具の気品ある美しさはつとに有名ですが、飛躍的な技術革新のきっかけは新宮殿豊明殿の造作工事と調度品の納入の時だと宮崎社長はおっしゃいます。この工事により内装材開発に着手、研究室が設置され、伝統技術とハイテクノロジーが融合した新素材に多くの成果が生まれました。絹川部会長は「熟練の職人、大工さんには物づくりに対して職人気質がある。この気持ちを尊重しつつ技術革新で応えるのが経営者の努め」と宮崎社長にエールを送りました。

建設産業部会のご紹介

〈部 会 長〉絹川　治（公成建設株式会社 代表取締役会長）
〈部会員数〉1,228件（平成24年2月28日）

建設産業部会では、絹川部会長はじめ、部会員の皆様から選任された10人の副部会長が中心となり、部会員相互の親睦事業や先端技術、建設設備の視察会、講演会などを企画しています。皆さまのご参加を心よりお待ちいたします。

【今年度の主な事業】
9月　第41回京津奈三商工会議所 建設関係部会合同懇談会
11月　説明会「下請債権保全支援事業について」
3月　視察会「京都第二外環状道路」「いろは呑龍トンネル」

【お問合せ】
建設産業部会事務局
（京都商工会議所 中小企業経営相談センター）
ＴＥＬ：075-212-6463
E-mail：soudan@kyo.or.jp